



学校だより

# みどりの

学ぶ当事者 支える当事者 緑野小学校

- 考え伝え合う子
- 心豊かな子
- 元気な子
- やりぬく子

令和5年10月2日

## ボーっとするのも悪くはない

校長 遠藤 昌司

緑野小そばの宇都宮記念公園から聞こえてくるセミの鳴き声が珍しくなってくるに連れ、空気にもだいぶ秋らしさを感じられるようになってきました。空に浮かぶ雲も、夏をイメージする「入道雲」から秋に見られるものになっています。5年生の理科では雲の学習をしますが、秋の雲には特徴があり、「うろこ雲」、「いわし雲」、「さば雲」や「ひつじ雲」に「すじ雲」など、その呼び名もたくさんあります。晴れた日に空を見上げると、この時期ならではの季節の変化を感じられます。

今月は運動会があります。この夏が非常に暑かったことから、児童の健康面を考え、本格的な練習は10月に入ってからとしています。運動会当日に向けて、これからも休憩や水分補給には十分に気を付けて熱中症対策をして参ります。大きな音が出ることで、近隣の皆様には、しばらくの間ご迷惑をおかけします。

日々の暮らしの中、大なり小なりの困難に直面することがありますが、その場合は何らかの解決策を見出さなければなりません。何かアイデアを出さなければという時に、「コロンブスの卵」の逸話を思い出します。ヨーロッパから大西洋を渡り、アメリカ大陸を発見したクリストファー・コロンブスは歴史上の偉人としてよく知られています。コロンブスはあるパーティーの席で、他の人が立てることのできない卵を、テーブルに底を打ち付けることで立てて見せたという話です。伝記の類は後世になって脚色されることも多いため、どこまでが事実なのかということはあるありますが、「コロンブスの卵」の逸話からは、誰も思いつかないような斬新な発想をすることの大切さを教えられるように思います。

発想といえば、つい先日、NHKの『チョコちゃんに叱られる!』を見てみると、「歩いているときにふとアイデアが浮かぶのはなぜ?」というテーマが取り上げられていました。何も考えずにボーっとしながら歩くことはアイデアを思いつくことにつながるという解説でしたが、以前、『NHKスペシャル 人体』で、似たような内容がありました。タレントのタモリとノーベル賞学者の山中伸弥教授が司会を務めた番組で、その中では脳内の電気信号の流れを調べ、何も考えないでいる時と、アイデアがひらめいた時では同じような反応を示すことから、脳をひらめく状態に近づけるためにはボーっとすることが大切だとの解説がされていました。脳のそのような状態は「デフォルト・モード・ネットワーク (特に何もしていない状態)」といい、研究も進められているそうです。

一見無駄なように思えても、時にはボーっとすることは必要なのかもしれません。『チョコちゃんに叱られる!』の中では最後に、緑の中を歩いたり手足を動かしたりすることは創造性を高めることにつながるとまとめられていました。宇都宮記念公園や多胡記念公園をはじめ緑の多いこの地域では、たくさんのアイデアが浮かんできそうです。